

愛鳥の心が育てるよい環境③
(日本鳥類日進透明度集算第一席) 愛鳥会連絡会

(日本鳥類保護連盟募集第一席入選愛鳥標語)



中仙道・旧塙尻峠入口。塙瀬と呼ばれる一帯が、長野県特別鳥獣保護地区である「小鳥の森」。このあたりを散策しながら、野鳥のサエズリをきき、習性を学び朝の清らかな空気を満喫するのが「小鳥バス」の本領。左で、手をあげて説明するのは小平万栄氏。図は、塙尻界隈で観察できるトリたち。



「は」に何がでまぬか

△小鳥バス▽——発案者であり、主催者であり、日本野鳥の会長野県支部連合会長である小平正^{こうだいまさ}

樂しまし、健康管理のうら、おのずから自ら愛へる愛、トリーへの愛をはぐむ——それは、小鳥バースのように、ヒト自身が生みかされた、いる自然、シカを守るために、かくして生まれた。なぜなら、ヒト自身が生みかされた、いる自然、生き、ヒトもまた、生命あるものとしての恵みを、誰もが山林を生かし、山林は土や水、葉と共に生き、ヒトもまた、生命あるものとしての恵みを、誰もが山林を生かすことにつながる——小平さんは、然の仕組みの深い根本を理解している人です。

こう考えると、ヒトが、健康で幸福な社会を守りつづけていくためには、ヒトのすむところすべてで、たきさんのたちが安心して暮らせる緑や草木、美しい水や空気、静かで清潔な環境を、何をもいても必要といふことになります。

そもそもは、いまこそ、トリたちに心を開くこと、そこへまだとも思ひ、心を開くこと、間違自身が生き、生きるための生存と生命への自覚、愛情を育むことに日々、考えるからです。ヒトは、仲間であるヒトや動物、自然のバラエティの破壊から、らしさ、心を持つことに、やさしく生き、死んでしまう道につながる所を考えるからです。

ヒトとともに生きるヒトの友愛を想起し、ヒトとともに生きるヒトの友愛を育てよう、と、そして、まことに私たちはヒトの心の中にトリの保護区を持とう、と、提唱します。

財団法人日本鳥類保護連盟
サントリリー株式会社